

# 令和4年度 福知山市施政方針

## 1 はじめに

本日、ここに令和4年第1回福知山市議会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては御参集を頂き、ありがとうございます。

新年度予算案並びに諸議案の審議をお願いするにあたり、令和4年度の福知山市政の施政方針を申し上げます。

## 2 令和3年度の市政を振り返って

本市は、昭和12年4月1日、天田郡福知山町区域を市域として、京都府で2番目に市制を施行しました。当時の人口は、3万2600人で、以後合併を経て今に至りますが、令和4年度は、市制の施行から85周年を迎える節目の年となります。今日まで、まちの礎を築き、その発展に向けて、大変な御努力と御尽力を頂いてきたすべての皆様方に、改めて深く敬意を表し感謝を申し上げます。

ところで、本市が市制施行した昭和12年の日本人の死亡原因1位は、現在再興感染症として大きなリスクをもたらしている結核でしたが、令和元年末、中国武漢市から原因不明の肺炎と報告され、令和2年1月中頃に国内において、3月上旬に本市において最初の感染者が確認された新型コロナウイルス感染症は、未だ衰えを見せていません。ジョンズ・ホプキンス大学の集計によれば、今月21日に世界の累計感染者数は約4億2400万人、死者は約588万人を超え、我が国の累計感染者数も、今月21日現在、約455万人、死者は約2万2000人を超え、本市においても、感染者数は2450人となり、死者も発生する状況となっています。

新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症は、生物多様性の損失や気候変動等の地球環境の変化にも深く関係していると言われており、昨年6月、英国・コーンウォールにて開催されたG7コーンウォール・サミットでは「気候変動及び生物多様性の損失という前例のない相互依存の危機が、人類繁栄、安全保障及び自然に対し存亡に係る脅威を与えている」との認識が共有されています。

改めて、私たちは時代の大きな転換点に立っているという認識の下、新型コロナウイルス感染拡大前の社会に戻るのではなく、持続可能で強靱な社会システムへの変革を実現していかなくてはなりません。

ニューノーマルに向かって益々加速する暮らしや社会の変容、人口減少や人口構造の変化、凄まじいスピードで進む技術革新と普及、待ったなしで取組が求められる気候変動や異常気象対策、大きく変わっていく産業環境など、VUCAの時代に必要な対策を臨機応変に立案し、未来を見据えて行動を起こすことが基礎自治体にも求められています。

令和4年度は、このように変わる時代を見据えつつ、不易流行の視点も併せ、行政と市民が協働して、市民が「幸せを生きる」まちづくりを目指す総合的な市政運営の

指針となる「まちづくり構想 福知山」、そして「行政改革大綱」の策定初年度となる年でもあります。

そして、それに先立つ令和3年度は、コロナ禍に伴う様々な制約もありましたが、状況をネガティブに捉えることなく、「しなやかで強靱なまちづくり」を目指し様々な取組みを進めてまいりました。

その一端を御紹介します。

まず新型コロナウイルス感染症対策としては、医師会・薬剤師会を始めとした多くの関係機関の皆さま方の御尽力、御協力のおかげによりまして、3回目の接種についても既に開始しており、3月からは5歳から11歳の小児についても接種を開始してまいります。

また、市内の中小事業者や個人事業主等に対しては、国制度で示された事業に加え、本市独自の支援制度により、適時適切に経済支援を行ってまいりました。

さらに、感染症の陽性者として自宅療養の指示を受けた方や濃厚接触者などとして自宅待機の要請を受けた方を対象として、お弁当を無料でお届けする「自宅療養者等配食サービス事業」では、今月21日までに378世帯の方に利用していただいております。また今年1月からは陽性者と濃厚接触した可能性がある無症状の市民を対象に無料のPCR検査を行っており、今月21日までの検査者数は延べ182人となっています。

ゼロカーボンシティ・再エネ100への挑戦としては、「地域における地域貢献型再生可能エネルギー事業の推進に関する協定」（5者連携協定）の枠組みにより、三段池公園総合体育館など市内公共施設3か所に、たんたんエナジー発電合同会社がオンサイトPPAによる太陽光発電を設置しました。今後、この設備により発電された電気を本市施設で使用し地産地消の取組みを進めてまいります。

有害鳥獣対策においては、「鳥獣対策専門員」を配置し、先進的なノウハウを持っている兵庫県立大学と連携を取りながら、2つのモデル地区において地域の方を対象としたワークショップを開催し、ICTを活用した情報の可視化、捕獲柵・檻の管理体制の見直しなどに取り組み、捕獲実績を増加させるとともに、地域主体で実施する体制づくりに取り組むことができました。

子育てとしては、令和3年度より新たに民間2保育園、公立1保育園が認定こども園となり、市内で全9園となりましたほか、小規模保育園を新たに1園認可しました。

健康で生きがいのあるまちづくりとしては、官・民・市民が一体となったアクティブシティの推進策を検討する推進市民会議を立ち上げ、開催し、それぞれの団体の取り組み内容の共有や意見交換を行いました。今後は、健康づくりの市民運動化に向けて検討し、各種事業を展開していくこととしています。

発信力のある魅力あふれるまちづくりとしては、令和2年度に都市圏で「明智光秀のまち福知山」にかかるアンケート調査を行ったところ、本市の認知度が50.1%と増加している中、これまでの脈々と受け継がれてきた本市に通底する「まちづくりの挑戦心＝光秀マインド」をコンセプトにした活動に加え、大江山の鬼伝説といった多様な資源を活用しシビックプライドの醸成と関係人口・交流人口の拡大を図り、「い

がいと!福知山ファンクラブ」の会員数は、今年22日時点で3,318人となり、令和2年度より7.9%増加しています。

産業集積と技術革新のまちづくりとしては、新たな企業や産業の創出、集積などを目的に、福知山公立大学にて、NEXTふくちやま産業創造事業を展開し、そのプログラム受講生から9つの新規事業が生まれ、うち4つについてクラウドファンディングを活用したテストマーケティングを実施したところ、すべて目標金額を大きく超える達成状況となったところです。

長田野工業団地関連では、企業の操業環境を確保するため、道路・緑地等の機能向上、美観改善に努め、新たに2社から投資がなされ、アネックス京都三和においては、新たに1件の立地が決定し、全27区画のうち残り7区画となるとともに、新たに5社からの投資、33名の雇用が創出されており、今後も積極的な誘致活動を展開することで、ますますの産業集積と雇用の創出を期待するところであります。

内水対策事業では、大江町河守・公庄地区の内水被害対策として、排水ポンプ施設整備工事や公手川河川改修工事を実施しており、令和4年度の出水期からは毎秒1トン、令和5年度からは毎秒2トンの機能を発揮させるべく事業を進めています。また、出水時の被災防止を図るため、4河川において、堆積している土砂の浚渫を実施しました。

また廃校利活用公民連携の一環として、旧佐賀小学校において、民間事業者による学校の校舎や敷地などを活用した「里山ファクトリー」がオープンしました。里山の風景を活かした食品の販売店舗兼工場やオープンカフェなど自然環境を強みとする事業展開を図ることで、廃校という資産を活かした地域貢献と自然環境を活かした賑わい創出を目的とした企業の新しい挑戦が始まりました。

本市の財政の現状としては、財政健全化を目的とした令和2年度までを計画期間とする第6次行政改革及び財政構造健全化指針の取組みにより、令和2年度決算での経常収支比率は92.2%と3年連続して改善したほか、財政指標に関する目標はすべて達成したところです。

このことは、将来にわたって健全な財政運営を継続するための基盤づくりができたことと捉えており、今後は、健全な財政構造の枠組みを堅持しながら「まちづくり構想 福知山」に掲げるまちづくりを進めてまいります。

### 3 変わる時代に 幸せを生きるまちづくり予算

さて、新型コロナウイルス感染症に関わり、令和2年3月WHOはパンデミックを宣言しました。一方、現在、3回目のワクチン接種を背景に、欧州を中心にパンデミックからエンデミックへの移行を模索し、行動規制が緩和されていますが、WHOのデドロス事務局長は「パンデミックの収束はほど遠い」とし感染防止策の継続を求めていると報じられています。我が国では、オミクロン株の感染拡大当初は、若年者の感染が多く、その殆どが無症状や軽症でしたが、現在は、高齢者や基礎疾患がある方に感染が拡がり、重症者が増加、死者は今年1日から16日の間で2175人と前月同時

期の5.4倍となり、本市においても医療・病床は逼迫し非常に厳しい状況にあります。

改めて、高い使命感と強い責任感をもって医療・介護の現場で御尽力頂いている従事者の皆様を始め、すべてのエッセンシャルワーカーの方々、そして外出自粛など感染対策に御協力を頂いている市民・事業者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

そして、感染症の拡大は、とりわけ行政のデジタル化の遅れを顕在化させ、社会経済活動を継続するためのテレワーク、オンライン教育、オンライン診療等、非対面・非接触での新しい生活様式などを支えるデジタル技術の重要性を再認識させられました。国においても、デジタル庁を始動させ、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら地方を活性化し、持続可能な経済社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を推進しようとしています。

本市においては、令和3年度に策定する「スマートシティふくちやま推進計画」において、「すべての市民が、いつでもどこでもICTなどによる利便性の高い社会の中で安心・安全に暮らし続けられるまち」を基本理念としており、引き続き、マイナンバーカードの普及、行政手続きのオンライン化をはじめ、デジタル技術を活用し市民サービスの効率化、利便性向上など、時機を逸することなく、より良いものに変革する取組を進め、デジタル社会への対応を進めてまいります。

次に、地球温暖化対策、脱炭素化への取組です。

地球温暖化の問題は、市民生活などとかげ離れた問題ではありません。将来にわたって、地球上の福知山というまちで、市民、事業者などが持続可能性を持って安心・安全な生活を送れるか、事業を営めるかの問題であり、本市として積極的に脱炭素化に取り組んでまいります。

地球温暖化の及ぼす影響については、気温の上昇、降水量の変化、氷河の融解により海面水位が上昇し、陸地が減ること、それらの影響も含め気候が変動し、自然災害の増加などで水や食料不足などが発生し、このまま温暖化が進めば住み続けられる地球を維持できないとされています。

脱炭素化について、二酸化炭素やメタンをはじめとする温室効果ガスは、地球温暖化に及ぼす影響が大きく、二酸化炭素はその内最も大きな影響を及ぼすとされています。昨年8月、IPCCの第6次評価報告書第1作業部会報告書では、初めて「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がない。大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている」と断言しました。

今、脱炭素化の動きは、産業分野も含め、加速度的に進展しており、国や企業に限らず、基礎自治体、そして一人ひとりの市民が考え、実践していくべき今日的課題です。

産業革命以降、1度以上上昇を続けている世界の平均気温を、パリ協定の努力目標である1.5度以内にするのが喫緊の課題であり、本市においては、二酸化炭素吸収源である森林について、循環型森林整備モデル事業に取り組むことを含め、あらゆる方面からゼロカーボンシティの実現に向けて取り組んでまいります。

ところで、人口減少問題については、人口ピラミッドからも必然的に日本全体の人口が減少していく中で、大都市部の人口を地方に移転させる社会増の競争が続いています。本市は、今後も自然増・社会増に向け最大限の取組を進めてまいります。北近畿

の他市町と比べれば人口減少は緩やかなものの、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計によれば、今後も人口は減少すると見込まれています。

そのような状況も踏まえつつ、「まちづくり構想 福知山」では2040年の私たちを取り巻く社会環境の変化を予測しながら「市民が幸せを生きるための4つの将来像」を示しています。

そして、それを実現するために、9つの基本政策を定め、計画的、かつ重点的に施策を推進していくこととして、施策・事業を組み立ててまいりました。

まちづくりの究極の目標は、そこに住む人々が幸せを実感できるまちを形作っていくことであると考えており、ポストコロナを見据えながら、令和4年度予算のテーマを『変わる時代に 幸せを生きるまちづくり予算』といたしました。

### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

はじめに、「新型コロナウイルス感染症対策」であります。

本市における18歳以上を対象とする新型コロナウイルスワクチンの3回目接種は令和3年12月より医療従事者から順に開始し、65歳以上の高齢者についての接種も既に始めております。一般の64歳以下には接種券の発送を順次進めており、ワクチンの供給に応じて速やかに接種を進めて参ります。

生活・暮らしの支援としては、感染症による影響が長期化する中、家計が急変した世帯への支援として1世帯10万円の支給を行うほか、生活困窮者の方々に対しても自立相談支援員などによる継続的な支援を通じ、自立支援金の支給を行ってまいります。福知山公立大学生に対しても公立大学が独自に行う授業料減免に対する支援を引き続き行います。

また、市役所のテレワーク等の環境整備や消防庁舎においては消防職員のクラスター発生を防止するため、施設・設備の改修を進めてまいります。

令和4年度におきましても、必要に応じ、感染症対策についてはきめ細かに対策を講じていく方針です。続きまして「まちづくり構想 福知山」で掲げた9つの基本政策について申し上げます。

### (2) 市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

まずひとつめが、「市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち」です。

新たに策定する「まちづくり構想 福知山」を市民と共に推進していくために、「(仮称)まちづくり構想推進市民会議」を立ち上げ、市民協働のまちづくりに向けた検討を行い、まちづくり構想を推進してまいります。

移住・定住の取組みとしては、移住促進WEBサイトなどにより情報発信、移住特別促進区域の拡大による空き家の掘起しや地域受入れ体制の強化を図ります。オンラインを活用しての移住相談、移住者のニーズに応じ行程を組む「福知山暮らし体感ツアー」などに加え、テレワークや二地域居住などの新しい移住のニーズにも対応しながら、移住候補地としての認知度を高め、移住定住、交流・関係人口の拡大を図りま

す。

市民が主体となった地域の課題解決や活性化への取組に対し、市民自らによる課題解決を行う仕組みづくりとして、「福知山市版コミュニティファンド」の構築を目指し、ふるさと納税版クラウドファンディングの仕組みを活用した試行事業を実施します。

また地域住民の支え合いによる新たな移動手段として、事前予約型のデマンド型乗合タクシーの導入に向けた実証実験モデル事業を新たに北陵地域において実施します。

三和地域において、三和支所などの改修を行い、住民の利便性をより高め「住み続けることができるまちづくり」を進めてまいります。

本市シティプロモーションは、コロナ禍で激変する社会状況に適応し、オンラインを果敢に活用することにより全国からの関心や参画を集めています。令和4年度は「挑戦」をコンセプトにしたPR活動を通して「明智光秀のまち」、「鬼のまち」の地域ブランディングを進めてまいります。

また、ふるさと納税は、前年度当初予算の約1.6倍の規模にあたる3億1600万円の寄附を見込みました。税外収入の確保と併せ、地域の魅力やふるさと納税などの情報を発信してまいります。

さらに、スマートシティを推進していく中で、行政手続のオンライン化やキャッシュレス決済等を広げていく必要がありますが、高齢者のスマートフォン普及率は全世代の中では低く、その使用等にも躊躇される方が多い傾向となっています。普及率向上の取組みとして、スマートフォンに不慣れな高齢者を対象に、生涯学習市民講座に加えスマートフォンの使い方講座の開催や1人あたり最大1万円の購入補助などにより、すべての世代が利便性の高い社会で安心・安全に暮らし続けられるよう取組を進めます。

### **(3) 市民一人ひとりが、自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち**

2つめが「市民一人ひとりが、自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち」であります。

本市は、ゼロカーボンや再生可能エネルギー自給率100%を目指し、エネルギーの地産地消などにより、地域内における「環境・経済・社会の好循環」を生み出す、持続可能な社会の実現に向けた取組を進めています。

そのような中、環境基本計画を策定し、市民一人ひとりが環境問題を身近に捉え、脱炭素化に向けた取組や廃棄物の削減などに取り組む機運を高めます。環境問題への具体的な取組みとして、石油由来のプラスチックの環境負荷を減じるため「燃やすごみ袋」を植物由来のバイオマスプラスチックが25%配合されたごみ袋に変更します。

市庁舎や小・中学校、福知山城など主な公共施設でLED化改修による省エネルギーを推進するほか、地元管理の集会施設等でLED化への改築・改修に対しても補助率を3分の2に拡充し、LED化への更新を促進します。

また、令和2年11月に建設・建築の事業者団体と締結した協定に基づき、引き続き、ゼロ・エネルギーハウスなどの再エネ・省エネ設備を備えた住宅の普及を支援してまいります。さらに再エネ電気を蓄電可能な電気自動車等への更新を令和4年度においても進めるとともに、急速充電設備を三段池公園駐車場など3か所の公共施設に配備しEV等の普及を促進してまいります。

また、森林分野では、夜久野地域において、地域と協働して循環型森林整備をモデル的に行い、このモデル的に実施する循環型森林整備を市全域に波及させる方法を検討し、具体的な森林整備の方向性を示すために『(仮称)福知山市森林ビジョン』を作成します。

また、京都府中・北部地域6消防本部の災害・救急情報を一元化・共有化し、令和6年4月から一括受信・共同処理する『中・北部地域共同消防指令センター』の運用開始に向け、消防指令システムの整備及び消防指令センターの改築工事に着手します。

地域防災の中核を担っていただいています消防団については、消防団の負担が年々大きくなっていることを鑑み団員の処遇改善を進めるとともに、安全装備として視認性等の高いレインウェアの整備を行います。

#### **(4) 市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、共に育み、共に育つまち**

次に「市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、共に育み、共に育つまち」です。

令和4年4月には、「福知山市みんなの多様な性を尊重する条例」を施行し、多様な性の尊重と理解促進を図るため、啓発資料の作成や講演会を開催するなど、広く市民に周知、啓発を進めてまいります。

子育て支援では、合計特殊出生率が本州で3番目に高く、子育て世代も多い本市において、孤立感や疎外感を持たずに地域で安心して子育てができる環境整備に加え、世代を問わず人と人がつながりをもてるまちづくりが必要です。多世代交流をキーワードに、三段池公園総合体育館にあるカフェスペースを活用して、子育て世代を核とした新たな拠点を創出することで世代を超えたコミュニケーションの環境づくりに取り組みます。

幼児教育・保育の無償化による影響や共働き世帯の増加等により、これまで以上に保育ニーズは高まっており、保育現場には不可欠となる保育人材の不足が喫緊の課題となっているため、保育士確保対策事業の新たな取組として、「保育士定着支援金制度」を創設し、新たに市内保育所等に勤務する保育士に採用後3年間で最大60万円を支給し、保育士の確保・定着を図ります。併せて、多様な保育ニーズに対応するため、公立保育園2園を令和4年4月から幼保連携型認定こども園へ移行し、教育・保育の多様な選択を可能にするとともに、教育の側面を備えた保育の展開、また保護者の就労条件を問わない、柔軟な子育て環境を確保致します。

#### **(5) 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち**

次に「市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち」について申し上げます。

学校教育環境の更なる改善を図るため、令和4年度から令和7年度の4年間で、各小・中学校で必要な特別教室に順次、エアコンの整備を進めてまいります。

また、児童生徒に1人1台配布をしましたタブレット型端末の更なる活用を図るため、普通教室以外の場所でもタブレット型端末を活用できるよう、特別教室や体育館のWi-Fi環境の整備を行ない、小・中学校におけるICT環境の充実を図ります。

福知山ラーニングイノベーション・プロジェクトでは、令和3年度からAIを搭載したソフトウェアによる学習が始まっており、子どもたちの学習履歴のデータ等を収集し、本市の強みである公立大学情報学部との連携により、ビッグデータとして分析し学校現場にフィードバックする仕組みを構築し、福知山ならではのICTを活用した効果的な教育の研究に取り組んでまいります。

公民館施設については、市内の各地域公民館全10館の午前中開館による利用機会の拡大や利便性向上を図るとともに、地域の情報拠点として順次Wi-Fi環境を整備し機能を充実していきます。あわせて、「地域公民館等長寿命化大規模改修事業」において、日新地域公民館・体育館の改修工事及び六人部地域公民館・体育館の改修設計に取り組めます。また、桃映地域公民館についても、地域住民の生涯を通じた豊かな暮らしの実現を目指して、各種機能を集約化した新たな地域の拠点施設として整備に着手します。

児童生徒への支援として、経済的理由により、学校生活や家庭生活で十分な衛生用品が購入できない家庭や、学習する機会を自ら制限せざるを得ない家庭に対して、本市独自の支援制度を創設し、1人あたり年額1万2000円を支給し支援します。

また、次代を担う子どもたちに、広い視野と国際感覚を持ち、新たな価値観や多様性を受け入れ、グローバルな国際社会で未来を切り拓く契機として、「はばたけ世界へ 中学生短期留学事業」において令和4年度はコロナ禍を鑑み、海外留学に替えて国内研修を行い、令和5年度からの留学事業実施に向けた準備を進めます。

福知山公立大学では、令和4年度からの第2期中期目標に基づき、北近畿地域の地域課題の解決に繋がる研究や地域のデジタル化をはじめ、ウィズコロナにおけるニューノーマル社会の構築に貢献する取組を進めてまいります。

#### (6) 市民一人ひとりが、その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち

次に「市民一人ひとりが、その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち」です。

文化振興では、令和4年度には、市民が気軽に文化に接し参加できる文化活動の核となる施設として、新たな文化ホールの整備のための基本構想・基本計画の策定に向けた検討に着手します。

ふくちやま医療・介護・福祉総合ビジョンの理念を実現するためには、「病気にならない」「介護状態にならない」という疾病予防の取組が重要です。アクティブシティ推進市民会議における民間団体等との連携を深めながら各種の取組を進めるとともに、市民の身体活動量を増やすこと等を通して、高血圧症予防等の健康課題の解消も図ります。

## (7) 市民一人ひとりが、最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち

次に「市民一人ひとりが、最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち」について申し上げます。

団塊の世代が75歳以上となる2025年が目前まで迫り、人生100年時代と言われる今、高齢化が進み、介護人材不足への対処は喫緊の課題となっています。このような現状を踏まえ、人材確保・定着を図るため、市内介護事業所で継続して勤務する方に3年間で最大60万円を支給する介護人材定着支援制度を創設し、市外のみならず市内の潜在介護人材の掘り起こしを行い、介護事業所等の人員確保体制を支援してまいります。

高齢化が進行する中、様々な情勢の変化に対応するため、本市においても健康づくり、介護予防や介護サービス体制の充実等、福知山らしい地域包括ケアシステムの構築・深化を目指して取組を進めてきたところであり、令和4年度においては、将来を見据えた介護保険サービスの基盤整備や介護予防・健康づくり施策など、地域包括ケアシステムの更なる充実を図ってまいります。

また、人生の最終盤において、自分らしく暮らしていける環境整備に向け、看取りの支援に関わる関係機関を対象とした研修会や協議の場を設置していきます。

地域の中核病院としての役割を担う市民病院では、患者の多様化・複雑化する医療ニーズに応えるため、引き続き医療スタッフの確保と医療機能の充実に努めるとともに、新たにリモートアフターローディングシステムを導入するほか、白内障手術装置をはじめとした医療機器を更新し、医療提供体制の強化に取り組みます。

大江分院では、人口減少と高齢化が進む地域の医療ニーズに合わせ、現在の一般病床をダウンサイジングして地域包括ケア病床に転換し、急性期病院の後方支援機能を担い、患者の在宅復帰を支援します。

## (8) 市民一人ひとりが、生活と仕事の調和の取れた、多様な働き方が生かされるまち

次に「市民一人ひとりが、生活と仕事の調和の取れた、多様な生き方が生かされるまち」について申し上げます。

すべての人が学び、働き、生活し、誰ひとり取り残さないまちづくりとして、障害のある人が就労の機会を得ることができるよう、マッチング支援の強化、新規に就労した障害者の方に1人あたり3万円の支度金の支給や障害福祉サービス事業所のECサイトへの出店などの支援を進めるとともに、雇用主となる方に対するセミナーの開催、アドバイザー派遣などを行い、障害のある人の雇用促進、定着支援を行ってまいります。

また、福知山公立大学の知見を活用し、多様なニーズに応え、シニア世代を中心に社会人に向けた実社会で応用できる情報スキルを基礎から学べる教育プログラムを令和4年度から開講科目を増やして、地域のデジタル化を牽引する人材育成を図ります。

(9) 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち次に「市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち」について申し上げます。

産業振興施策としては、ニーズの変化などに対応した新たな価値創造を担う事業者の創出などを目的に開講しているNEXT産業創造プログラムの充実を図るため、新たにNEXT産業創造プログラム受講者が市内で起業される際の経費を補助する起業支援制度を創設します。

さらに、事業者がECサイトの構築やオンライン商談会に参加するなど、販路開拓の取組に対して、産業支援センターとの連携の下、支援することで事業者の販路開拓を下支えします。

農林業施策としては、農業者が有機JAS認証米や特別栽培米の販路開拓や収益力の向上に向けて取り組む期間の支援金の交付や有機JAS認証を新規に取得される方への助成、農業者自らが行う販路開拓の取組に対しても支援を始めます。福知山ならではの農作物等を新たに掘り起こす「ふくちやまのエエもん」発掘事業は、引き続き実施するとともに、市内外での販路拡大に向け、生産現場での見学会と認定品のプレゼンテーションの実施、市内販売所での直売・PRを実施してまいります。

有害鳥獣対策としては、「福知山市鳥獣被害防止計画」に基づき、計画捕獲を実施するとともに、先進的知見を持つ兵庫県立大学と協働し、モデル農区における地域主体の有害鳥獣対策を一層推進するほか、この取組みの周辺地域への展開と、現在の有害鳥獣対策の効率化を図るため、ICTを活用した有害鳥獣対策に関するデータの可視化システムを構築します。

林業の担い手として新規就労者を増加させるため、インターンを希望する学生に対して補助を行い、誘致に関する支援を行います。また、自伐型林業に興味を持つ方を対象としたフォーラムや研修会を開催することで、新たな担い手による森林整備の推進や地域の林業の発展に貢献できる環境づくりを支援してまいります。

市内における消費喚起対策として、ポストコロナを睨み、新しい仕組みとしてデジタルプラットフォームを構築し、市民や市外来訪者を対象に市内の登録店舗で使用できるプレミアム率25%の「ふくちやま応援プレミアムポイント」を販売し、総額5億円規模の経済対策を実施します。

#### (10) 持続可能な生活を支える基盤の整ったまち

最後に「持続可能な生活を支える基盤の整ったまち」です。

治水・内水対策としては、本市積年の課題である水害等からの教訓を踏まえ、引き続き、防災・減災対策にハード・ソフト両面から注力して参ります。

大江町公庄・河守地区の内水対策といたしましては、施設配置最適化計画に基づき、排水ポンプ施設や調節池等の整備、河川改修などを進め、早期の機能発現を目指します。

住宅開発が進む下六人部地区における浸水被害軽減対策といたしましては、関係各課が横断的に連携して道路排水施設、農業用施設、下水道施設の整備などに取り組ん

でまいります。

自治会等からの道路橋りょう施設に係る危険箇所等の改修要望に対し、危険性が高く対策が必要な箇所については、緊急的かつ集中的に安全対策を実施し、引き続き安全確保を図って参ります。

市営住宅につきましては、「福知山市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、耐用年数を超過し老朽化した市営つつじが丘団地、向野団地の統合建替を行うことにより、市民の安心・安全と居住水準の向上を図ります。

#### 4 令和4年度予算編成

以上、主な施策・事業について申し述べて参りましたが、令和4年度予算につきましては、一般会計で総額432億円といたしました。

歳入面では、依然として新型コロナウイルス感染症の収束は不透明ではありますが、市税収入においては各税で今年度の実績見込みを考慮し、総額5億1100万円余の増収を見込んでおります。

地方財政計画により、普通交付税は5億4000万円の増収、臨時財政対策債は11億2600万円の大幅な減収を見込んでいます。このほか、地方消費税交付金や法人事業税交付金、環境性能割交付金においては増収を見込んでいます。

一方、歳出面では、新型コロナウイルス感染症対策にかかる経費やつつじが丘・向野団地の統合建替や三和支所、地域公民館の大規模改修、中・北部地域共同消防指令センター整備事業などの投資的事業に積極的に取り組むこととしたほか、後年度の財政負担を軽減するために地方債の繰上償還にかかる経費を計上したことなどから、予算規模としては過去最大規模の一般会計予算となりました。

しかしながら、必要な投資を厳選しつつ、財源として、国府補助金等の活用や、交付税措置のある有利な市債を活用することにより、財政調整基金の取り崩しは行わない当初予算といたしております。併せて、財源対策として活用を計画している合併算定替減対策基金は予定していた2億円の取崩しに留め、収支の均衡を図りました。

このほかにも、持続可能な財政運営を進めていく取組といたしましては、歳入面において、公共施設マネジメントにより創出される土地の収益等に加え、公社継承土地の収益も含めて公共施設等総合管理基金に着実に積み立て、将来の公共施設にかかる様々な需要に備えて参ります。

結果として、一般会計は令和3年度に比べて31億円、7.7%の増加、特別会計の予算は総額196億4307万6000円、公営企業会計の予算は総額296億2850万円で、全会計を合わせまして924億7157万6000円としたところであります。

#### 5 むすびに

さて、今月、藤井聡太竜王が王将戦で4連勝し、19歳6ヶ月という史上最年少記録で将棋の8大タイトル戦のうち、五冠を達成しました。その藤井竜王は、AIを使

った研究の深さでも有名で、ディープラーニング系AIに、より近い手を選択しているが、強くなりたいという探究心があるからAIを導入したのであって、単にAIがあるから強くなったのではないとも言われています。人口減少・人口構造の変化、テクノロジーの進歩と普及、地球温暖化の進展と自然災害の増加、産業を巡る環境の変化が進む時代にあっても、例えば、まちづくりを進めるためにテクノロジーを活用するのであって、単にテクノロジーがあるからまちづくりができるわけではありません。本市が所蔵している藤井竜王が史上最年少で四段に昇格したときの扇子に揮毫されているのは「大志」という言葉です。本市は、市民が「幸せを生きる」まちづくりを進めるため、その「大志」という言葉の通り、未来に向けて遠大な希望を持ち、力強く歩んでいかなくてはなりません。そして、いつかは、藤井竜王にも「大志」と「光秀マインド」、「挑戦心」をもって歩むまち福知山を訪れ、福知山城で対局していただきたいと思っています。

新たな節目の年にあたり、市民一人ひとりが、市民憲章が謳う「幸せを生きる」ことができる、変わる時代とともに進化し続けるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、市民の皆様、議会の皆様の一層の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、私の所信を述べまして、令和4年度を展望する施政方針といたします。  
ご静聴まことにありがとうございました。